一般口演23
痙縮（3）

2020年8月19日(水) 15:00-16:00 第15会場 | 国立京都国際会館 5F Room 509

[座長] 幸田 剣（和歌山県立医大）

ライブ配信セッション

1-15-3-1

当院におけるボツリヌス療法の多職種連携の実践

古川 陽介:1、古賀 信太朗:2、寛田 司:3、長尾 彰:4、正田 哲久:1、内垣戸 愛:1、坂本 道子:1
1:福山整形外科クリニック、2:東海大学医学部専門診療学系リハビリテーション科学、3:寛田クリニック、4:呉整形外科クリニック

当院のある福山市は，岡山市と広島市の間にありこれらの都市と比べ，医療過疎地域に属する．そのため当院は整形外科クリニックであるにも関わらず，外来や介護保険での通所・訪問リハビリテーションの場では，整形外科疾患のみならず痙縮を伴った脳梗塞後遺症患者をよく目にする．そのような地域特性に応じるため，2018年より3ヶ月に1度リハビリテーション科専門医の協力のもとボツリヌス療法を開始した．生活期のボツリヌス療法において施注医と後療法を行う担当セラピストが別の病院・施設であり，しばしば治療連携が難しいとの報告が散見される．介護保険でのリハビリテーションを行う生活期最前線の外部セラピストにとって医師に対する敷居の高さは医師側の想像を超え，こうしたことが連携の阻害因子となっている可能性がある．当院は同一施設内にボツリヌス療法を行う外来診療部署と介護保険でのリハビリテーションを行う部署の双方を持っている．このメリットを最大限に生かして主治医，施注医，担当セラピスト，担当看護師でチームを創り，患者情報を共有することを心掛けており，幸いなことに患者の満足度も高い．今回の発表では，当院でのボツリヌス療法の導入，ボツリヌス療法におけるセラピストの取組みと役割，施注医と主治医の連携など，多職種連携の実践について実例をもとに紹介する．